



趣味を通じた生きがいづくり

十人十色

Vol.8

顔出しパネルの撮影

興味を持つきっかけとなった
水戸黄門の顔出しパネル



手描きの絵柄(箱根開所)

——浅見さんは、全国で顔出しパネルを撮影されている
そうですが、興味を持たれたきっかけは何だったのですか。

常磐自動車道のサービスエリアにあった水戸黄門の顔出しパネルです。顔出しパネルの存在は知っていたのですが、僕の出身地である茨城県のヒーローが顔出しパネルになっているのを見て「これは何だ!」と衝撃を受けました。

——もともと旅はお好きだったですか。

はい。20代で車を買ったのをきっかけに、仕事が休みの週末や連休を使って、あちこちの観光地を巡っていました。そこでいろいろな顔出しパネルに出会ったことから、全国にどれだけあるのか興味が湧き、今までにほとんどの市町村へ行きました。おかげで、「全国の市町村すべてに足を踏み入れる」という楽しみも見つけ、残すところ十島村、青ヶ島村、小笠原村の3つだけになりました。

——情報はどのようにして集められているのですか。

以前は行き当たりばったりで見つけていましたが、最近では友人からの情報の他、SNSの情報も豊富なので参考にすることもあります。しかし、あらかじめ知ってて見つけた時と、自分で目星をつけて発見した時とでは、嬉しさの度合いが全然違います!

——写真撮影をされる際、こだわられていることは?

1つは、穴から顔を出す際に顔出しパネルの絵柄に合わせて自分の表情をつくることです。もう1つは一期一会の精神で、顔出しパネルを全方位(前後左右の背景を含めて全体と、穴からのぞいた景色)から撮るようにすることです。

——お気に入り、またはオススメを教えてください。

その土地ならではの絵柄だったり、味わいのある手描き

浅見 通彦 さん

会社員

【あさみ・みちひこ】1968年、茨城県出身。顔出しパネル収集家。日本全国を旅しながら顔出しパネルを探索。ホームページ「日本風景マニアックス」で顔出しパネルと日本各地の風景写真を紹介している。
<http://japan.mania.cx/>



宝探し感覚で全市町村制覇へ!

の絵柄、くすっと笑ってしまうようなユーモアあふれる絵柄が、旅の思い出になるのでオススメです。

——顔出しパネルの面白さ、魅力とは何ですか。

旅の思い出づくりを演出してくれることと、手軽に変身願望をかなえてくれることです。また、宝探しの発見した時のワクワク感だったり、設置するお店のおもてなし感も魅力です。「なぜそこに置かれているのか?」と理由を想像するのも楽しいです。純粋に絵画鑑賞としてもバラエティに富んで面白いですし、「なぜそこに穴をあけるか?」という、突っこみ対象にもなります。

——顔出しパネルに関し、どんな活動をされていますか。

ホームページで情報を発信し続けています。あと、出掛けた先で「ここにパネルがあったら良いだろうなあ」と思ったときには、現地の人に顔出しパネルの存在をお伝えし、設置の検討をお願いしたりもしています。

——顔出しパネルの撮影を始められてからの変化は?

顔出しパネル撮影の旅をすることと、写真や情報の整理・発信をすることにより、インドアとアウトドアの活動バランスが良くなりました。ただ、顔出しパネルの穴から顔を出すとき中腰になることが多いので、足腰はしっかり鍛えておきたいと思っています。

——顔出しパネルとは、今後どう関わっていきたいですか。

顔出しパネルは元々劣化しやすい環境に置かれているので、頻繁に置き換えられますし、新作も次々に生み出されています。ですからゴールが見えないですね(笑)。まだ見ぬ顔出しパネルとの出会いを楽しみに、ライフワークとして続けていきたいです。



左: 思わずくすっと笑ってしまう絵柄(姫路市立動物園)
下: 股のぞきで有名な天橋立の顔出しパネル。その土地ならではの絵柄もおすすめ

